

クロバネキノコバエ科の一種の総合的防除体系の確立と実証

研究期間	平成 29 年度～令和元年度
課題番号	2905
研究実施機関	キノコバエコンソーシアム <ul style="list-style-type: none"> <li>・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構(農業環境変動研究センター、中央農業研究センター、野菜花き研究部門)</li> <li>・(国研)森林研究・整備機構</li> <li>・(大)静岡大学</li> <li>・埼玉県農業技術研究センター</li> <li>・埼玉県大里農林振興センター</li> <li>・群馬県農業技術センター</li> </ul>
研究概要	<p>埼玉県北部のねぎやにんじんの産地では、平成 26 年より、クロバネキノコバエ科の一種による甚大な被害が発生し、これらの作物の栽培が困難な事例も認められています。</p> <p>仮に本種によるねぎ、にんじんへの被害が他の地域に拡大した場合は、農業生産収益を大きく減少させるおそれがあります。また、本種は国内未記録種である可能性が高く、生態や防除方法が不明であり、現在のところ、有効な防除方法が確立されていません。</p> <p>このため、本種に対する総合的な防除体系を確立し、生産現場に普及することで、本種のまん延を防止するとともに生産現場における被害を最小に抑える必要があります。そこで、本種について、発生・分布状況を把握する手法及び各種防除技術の開発を行い、総合的な防除体系を確立するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>本研究の実施により、以下の成果を得ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種識別法の開発</li> <li>・ 成虫発生時期の予測</li> <li>・ 化学的防除として、防除に有効な薬剤の選定と体系化</li> <li>・ 耕種的防除及び物理的防除として、残渣処理、排水対策等。</li> </ul>
行政における研究成果の活用方針(令和 2 年 11 月時点)	<p>本課題の実施により得られたクロバネキノコバエ科の一種の防除技術、モニタリング方法等について、本種の防除対策に活用しており、引き続き、防除対策を実施する。</p>

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載